

# 実践のまとめ

## 低学年ブロック

単元名

「きいてたのしもう」

教材名

「いなばの白うさぎ」



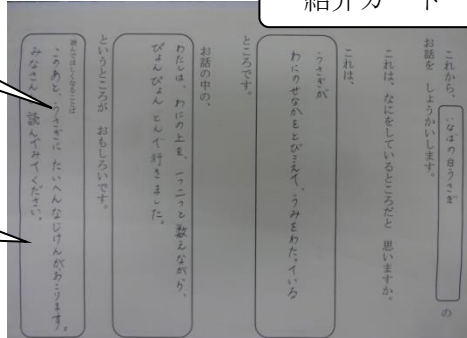
**手立て1**  
伝統や文化を身近に感じられる出会い方の工夫

☆読み聞かせの前に、紹介カードを見ながら、クイズ形式でどんなお話か想像を広げ、昔話を読む意欲を高める。

これは何をしているところでしょう。

これは、うさぎがわにのせなかをとびこえているところです。

紹介カード



うさぎがとんでいるね。海にいるのかな。

さめが泳いでいるところを、とびこえているんじゃないかな。



**成果と課題**

- 導入を教師の紹介カードで行ったことで、想像を広げながら「いなばの白うさぎ」の読み聞かせを聞くことができた。
- 紹介カードをクイズ形式にしたことで、聞く児童も紹介を真剣に聞いていた。
- クイズ形式だったので、発表する児童も楽しく意欲的に学習が進められた。

**手立て2**  
伝統や文化に対する理解を深める活動の工夫

☆図書館司書の読み聞かせや図書の紹介を聞き、自分たちの住む地域にも昔話が伝わっていることを知る。

さいたま市にも、「見沼と竜神ものがたり」という話がありますよ。


住んでいるところの近くにも、昔話があるんだね。

そのお話、読んでみたいな。



「おくむさしのてんぐ」は、飯能という場所に伝わる話です。

埼玉にも、たくさんのむかし話があるんだね。



**成果と課題**

- 図書館司書の読み聞かせの際に、埼玉県内の昔話を紹介してくれた。埼玉県の地図を掲示したり、本の実物を見せたりすることで、自分たちの身の回りにも昔話が伝わっていることを知ることができた。

**手立て3**  
伝統や文化に親しむ活動の工夫


☆自分が読んで面白かった話を紹介カードで伝え合うことで、様々な作品の面白さに触れる。

お話の中の、「おんちよろちよろ出てこれそう」というところがおもしろかったです。



「おーけな、おーけな たこ」というところがおもしろかったです。

「おーけな」は「大きな」ということだね。昔の言い方もおもしろいね。



ぼくの昔話、みんなも読んでみてね。



**成果と課題**

- 学級の児童が皆異なる昔話を選んだことで、児童はたくさんの昔話にふれることができた。
- 授業後にも、友だちの紹介カードでクイズを出しあったり、友だちの紹介した昔話を読む姿が見られた。
- 紹介カードの中に、紹介する本の一文を入れたことで、昔話の独特な語り口調や言い回しにふれることができた。

**指導講評** さいたま市教育委員会指導1課 指導主事 倉橋 りえ子先生より

- 伝統文化や昔話ならではの面白さは、児童が実際にふれていくことで、だんだんわかっていくものである。
- 昔話だけを取り出して読ませるのではなく、様々な本を読む中で昔話に自然に触れさせていく。その中で、昔話がおもしろいと感じられるようになればいい。
- 低学年のうちに昔話にふれることが、古典学習の下地になる。
- 紹介カードをクイズ形式で発表するという単元を貫く言語活動がしっかりとできていた。
- 図書館司書の読み聞かせを途中までにしたことが、児童の読書意欲を高めた。
- 紹介カードだけでなく、手元に昔話の本が実際にあるとよい。

# 実践指導案

## 低学年ブロック

単元名

「きいてたのしもう」

教材名

「いなばの白うさぎ」

## 第2学年3組 国語科学習指導案

平成27年7月6日(月)  
第5校時 2年3組教室  
授業者 齋藤亜未

1 単元名 きいて たのしもう

教材名 いなばの 白うさぎ なかがわ りえこ (光村図書 二年上 たんぽぽ)

### 2 単元について

#### (1) 児童観

本学級の児童は、読書を好む児童が多く、休み時間に本を読んだり、図書室で過ごしたりする児童も多くいる。週1時間の図書の時間には、図書館司書の読み聞かせを聞き、また6月には、良い本を読む運動推進委員会の方々に読み聞かせをしていただいている。さらに児童会活動として、4年生のペアとの「わくわく読み聞かせ」を行っている。これらの活動を楽しそうにしている姿から、児童は読み聞かせに親しんでいると言えるだろう。他にも、月に一度、朝読書の時間に日本昔話のDVDを視聴し、昔話に関心・親しみをもつ児童も多く見られる。

児童は1学期に「ふきのとう」で、登場人物の言動、誰が出てきたか、誰が誰に何をしたかなどを話し合う学習を行った。その際、心に残った場面を交流し合う活動も行った。交流し合う活動を好む児童は多く、意欲的に発表をしている姿が見られた。

本学級の児童の国語科に関する実態や本小単元に関わる実態を把握するために、アンケートを行った。結果は以下の通りである。

1	むかしばなしや せかいのお話を聞いたり、読んだりするのは好きですか。	好き 21人	どちらかという 好き 11人	どちらかという きらい 2人	きらい 1人
2	お話のばめんを おもいうかべながら、たのしんで読むことができますか。	できる 25人	どちらかという できる 7人	どちらかという できない 3人	できない 0人
3	読んだ本の好きなどころを ともだちにしょうかいしたり、ともだちのしょうかいを 聞いたりすることができますか。	できる 20人	どちらかという できる 13人	どちらかという できない 2人	できない 0人

(アンケート実施：平成27年5月 児童数35名)

このアンケートから、9割以上の児童が昔話を聞いたり、読んだりすることを好んでいることがわかる。「昔話が好き」「読むのが楽しい」など、多くの児童は昔話を読むことを楽しんでいる。また、お話の場面を思い浮かべながら読むことや、友達に読んだ本の紹介をすることができると考えている児童は多い。しかし、中には、「場面があまり思い浮かばない」「紹介を聞くことはできるけど、自分がするのははずかしい」と考えている児童もいる。実際の児童の様子を見ても、登場人物の行動や話のすじがつかみ切れていない児童や、発表の場では緊張して声が小さくなってしまいう児童が少なからずいる。

本単元では、昔話を聞いたり、読んだりする経験を重ね、より多くの児童が昔話の楽しさを実感できるようにしていく。また、登場人物の行動、話のすじを理解しやすくするような授業の展開や、児童全員が自信をもって発表に臨めるような支援をしていきたい。

## (2) 教材観と指導観

本単元は、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項「(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること」をねらいとする。本単元は読み聞かせ単元である。耳から入ってくるお話について、挿絵を見ながら聞き、登場人物の行動を追いつつ、場面の様子に想像を広げる。

「いなばの白うさぎ」は出雲神話である。神話として古代の日本人が残してくれた伝統文化に触れる機会は昔話と比較して多くないと考えられ、児童にとって意義のあることである。このお話との出会いをきっかけに、自分の住む地域に伝わる話にも関心がもてるようにしたい。

このお話は、白うさぎの語り部分を挟んだ三つの場面からできている。白うさぎの語り部分は、白うさぎの行動がかぎとなって展開していくため、登場人物の行動を中心に場面の様子をとらえる学習に適した話と言える。また、前半・後半の兄神の意地悪な行動とオオクニヌシのやさしい行動が対照的であり、その違いを児童にとらえさせていきたい。語り手が途中で変わるため、読み聞かせの際には十分に間を取ることで、児童の理解を助けるようにしたい。

本単元は読み聞かせ単元ではあるが、読み聞かせを聞くだけでなく、自分の好きな昔話を紹介し合う活動に重点を置いて展開していく。

導入では、知っている昔話を交流し合うことや、教師の「いなばの白うさぎ」の紹介カードを見せることで、読み聞かせへの意欲を高めていく。紹介カードもクイズ形式にすることで、お話への想像を膨らませられるようにする。そして、その後の読み聞かせでは登場人物の行動を中心に、あらすじをとらえていく。

その後の学習では、昔話を読み、好きな話の一つ選んで、教師と同じ紹介カードで交流し合うことにつなげていく。昔話を読みながら選んでいく際には、読書カードに「だれがなにをした」ところが面白いと感じたのか記録していくことで、登場人物の行動を中心に読む経験を積ませたい。

昔話を互いに紹介していく本時では、導入と同じくクイズ形式で紹介を進めていくことで、お話への想像を膨らませるとともに、紹介された昔話を読みたいという意欲が喚起されるようにしていく。また、紹介し合う活動の後に、図書館司書から埼玉県に伝わる昔話を読み聞かせしてもらうことで、昔話が身近なものであることに気づかせ、昔話に親しめるようにしていく。

これらの活動、またその後の読書活動を通して、より昔話に親しむ心を育てていきたい。

## 3 研究主題との関わり

研究主題 豊かに考え、生き生きと学ぶ児童の育成  
副題 ～伝統や文化に親しみながら～

<低学年の目指す児童像> いろいろな伝統や文化に親しもうとする子

### (1) 単元の系統性

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) - (ア) に関する系統

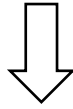
1年

「まのいい りょうし」  
繰り返しの楽しい笑い話・ほら話



2年

「いなばの白うさぎ」 → 「三まいのおふだ」  
神話 はらはらす話・和尚と小僧もの



3年

「ばけくらべ」  
笑い話・化かし合いもの

(2) 研究主題にせまる手立て

手立て① 伝統や文化を身近に感じられる出会い方の工夫

☆1 読み聞かせの前に、紹介カードを見ながら、クイズ形式でどんなお話か想像を広げ、昔話を読む意欲を高める。

手立て② 伝統や文化に対する理解を深める活動の工夫

☆2 図書館司書の読み聞かせや図書の紹介を聞き、自分たちの住む地域にも昔話が伝わっていることを知る。

手立て③ 伝統や文化に親しむ活動の工夫

☆3 自分が読んで面白かった話を紹介カードで伝え合うことで、様々な作品の面白さに触れる。

4 単元の目標

- 楽しんで読み聞かせを聞いたり、昔話の本を読もうとしたりしている。 (関心・意欲・態度)
- 人物の行動を中心に場面の様子を想像しながら読み聞かせを聞き、内容や感想について聞いたり話したりすることができる。 (読むこと)
- 知っている昔話・伝承や読み聞かせてもらいたい話などについて、発表し合うことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「神話の読み聞かせを聞く。」 ・学習指導要領との関連 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項 (イ) 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりする言語活動 (オ) 読んだ本について、好きなどころを紹介する言語活動		
○楽しみながら、読み聞かせを聞くとしている。 ○昔話や神話に興味をもち、進んで読書をしようとしている。	○登場人物の行動をとらえ、場面の様子を想像している。(ウ) ○自分が読んだ昔話や神話について、好きなどころを紹介している。(オ)	○神話の読み聞かせを聞いている。(1) ア (ア)

6 単元の指導計画 (全4時間)

時	主な学習活動	学習内容	・指導上の留意点 ◇評価
1	・知っている昔話や神話を紹介し合う。 ・教師の紹介カードからどんな話を想像する。	・昔話の紹介 ・紹介カード	☆1 知っている昔話を紹介し合ったり、教師の紹介カードを見たりすることで、神話を聞く意欲を高める。



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いなばの白うさぎ」の読み聞かせを聞く。</li> <li>・登場人物とあらすじをとらえる。</li> <li>・好きなところを発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・登場人物</li> <li>・あらすじ</li> <li>・誰が何をしたか</li> <li>・好きなところの発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を見ながら読み聞かせを聞き、想像を膨らませられるようにする。</li> <li>・理解が難しい言葉は補足説明をする。</li> <li>・話のあらすじを確かめられるよう、板書にまとめていく。</li> <li>◇読み聞かせを聞いて、登場人物の行動をとらえている。【読】(発表)</li> <li>◇読み聞かせを聞き、好きなところを伝えることができる。【伝国】(発表・観察)</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を見て、たくさんの神話や昔話が伝わっていることを確認する。</li> <li>・昔話や神話の本を読み、紹介する本を決める。</li> <li>・紹介カードを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の昔話や神話の紹介</li> <li>・読書</li> <li>・紹介カードの書き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆2 日本各地に、その土地に伝わる話があることを紹介し、昔話への興味を高める。</li> <li>・読んだ本を読書カードに記入していく。</li> <li>◇昔話や神話の本を楽しみながら読んでいる。【関】(読書カード・観察)</li> <li>・「だれが、何をしている」ところが面白いと感じたのか、明確に書くことができるようにする。</li> <li>・友達が紹介を聞いて読みたくなるような場面選びや、言葉遣いをするよう声かけをする。</li> <li>◇登場人物の行動をとらえ、紹介カードを書いている。【読】(紹介カード)</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな昔話を発表し合う練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の仕方</li> <li>・練習</li> <li>・紹介カードの手直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の仕方を確認し、本番とは別のグループで練習を行う。</li> <li>・練習をして、面白さが伝わりにくかったり、登場人物の行動がわかりにくかったりした部分を手直しする。</li> <li>◇すすんで発表の練習をしている。【関】(観察)</li> </ul>
4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな昔話を発表し合う。</li> <li>・さいたまの地域に伝わる昔話の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな昔話の発表</li> <li>・感想発表</li> <li>・読み聞かせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで発表を行う。</li> <li>☆3 自分が読んで面白かった話を紹介カードで伝え合うことで、様々な作品の面白さに触れる。</li> <li>◇昔話の内容や感想について、発表し合うことができる。【読】(発表)</li> <li>☆2 自分たちの住む地域にも昔話が伝わっていることを知る。</li> <li>・埼玉県に伝わる昔話を知り、今後の読書意欲を高める。</li> <li>◇読み聞かせを聞き、昔話を楽しんでいる。【伝国】(観察)</li> </ul>

## 7 本時の学習指導（4／4時）

(1) 目標 自分の好きな昔ばなしを発表し合い、昔話に親しむことができる。(読むこと)

(2) 指導

前時の学習内容	紹介カードを仕上げ、発表の練習をする。		
主な学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ◇評価 ☆手立て	時間
1. 本時の目標を確かめる。	○学習目標  むかしばなしクイズの会をしよう。		2
2. 発表の仕方確かめる。	○発表の仕方 ・クイズ ・どんな場面か説明(誰が、何をしている) ・むかし話の文 ・読みたくなる言葉  ○発表の聞き方 ・どんな話だったか ・読んでみたい話	○前時の学習を振り返る。 ○一目見て発表の仕方・聞き方がわかるよう、板書を工夫する。	5
3. 好きな昔話をグループで発表する。	○好きな昔話の発表 ○昔話に興味をもつこと ○昔話の文体に慣れること  ○代表児童の発表	○だれが何をしたか、わかるように発表するよう声かけを行う。 ○自分がこれから読みたい本を見つけながら聞くようにさせる。 ◇昔話の内容や感想について、発表し合うことができる。 <b>読</b> (発表) ☆3自分が読んで面白かった話を紹介カードで伝え合うことで、様々な作品の面白さに触れる。 ○教師が意図的指名をし、様々な昔話の発表が聞けるようにする。	20
4. 感想を発表する。	○感想発表	○発表を聞き合った感想の交流を行う。 ○発表の内容についての感想を発表させる。	5
5. 「おくむさしのてんぐ」の読み聞かせを聞く。	○読み聞かせ	○自分たちの住む地域にも昔から伝わっている話があることを伝える。 ☆2自分たちの住む地域にも昔話が伝わっていることを知る。 ○図書館司書に読み聞かせてもらい、読み聞かせへの意欲を高める。 ○物語の読み聞かせを途中まで行うことで、読書意欲を高める。 ◇読み聞かせを聞き、昔話を楽しんでいる。	10



6. まとめ	○読書カード	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">伝国</div> （観察） ○昔話を引き続き読んでいくことを知らせる。	3
--------	--------	---	---

## 8 板書計画

埼玉県地図

きいて たのしもう

むかしばなしクイズの会をしよう

しょうかいカード

はっぴよう

クイズ

紹介カード

こたえ

むかし話の文

読みたくなること

ば

はっぴようの 聞きかた

児童のカード

児童のカード

児童のカード

一、どんな話かわかるように聞く。  
二、これから読んでみたい話を見つける

- ・ほかの話も読んでみたい。
- ・○○という話は知らなかった。
- ・いろいろな話があつて、おもしろかった。